

「ICTの活用による個に応じた授業づくり」

学校名 サンチャゴ日本人学校

所在地 La Dehesa 1340, Lo Barnechea, Santiago, Chile

ホームページ
アドレス <http://www.iejapones.com/>

1. 研究の背景

平成 25 年度、本校は 36 人の小規模校である。保護者のチリ駐在に伴って在籍する子どもが大半を占めるが、中には日本の生活よりもチリを含め海外での生活の方が長い子ども、チリに生まれて日本に住んだ経験のない子どもが 25%(9 人)在籍している。そのうち、日本人とチリ人の両親をもち、家庭での生活がスペイン語である子どもが 6 人(全体の約 17%)である。学校生活全般において、日本語を理解する能力に差があったり、日本で生活していれば普通に知っている物事を知らなかったりする子どもがいて、特に学習活動を展開していくにあたり、立ち止まって説明、確認が必要な場面が多くある。

これらの実態をふまえ、平成 25 年度は「学力差(異学年や日本語能力の差)がある中での指導方法の工夫」として校内研究を行った。・子ども一人一人が手に取れる教材を作成し、具体物を通して互いの考えを理解し合える工夫・子ども一人一人の理解の状況を教員が把握する場面を設定した授業展開・子ども一人一人が自分の考えを積極的に出し合えるように話形を提示する工夫などに取り組んだ。子どもが自分なりの考えを発信し合い、考えを深め合う学習の場を保障することが大切であることが分かった。しかし、子ども一人一人の日本語を理解する力、教材に使われている日本特有の物事に対する認知について実態を把握し、対応していく必要があり、それが課題となっている。

2. 研究の目的

- ICT 機器活用により、子どもたちが共通理解や共通認識をもって授業にのぞめるように情報提供をする。
- 自分なりの考えをもって話し合ったり、学習内容の定着のために練習したりする学習の場を十分に確保するための ICT 機器活用による授業展開を工夫する。

3. 研究の方法

- ・上記の方針に沿って、事前研～研究授業～事後研を行い、全職員で本校の課題の把握に努めたり、指導法の改善を図ったりしていく。
- ・授業者は、基本的に派遣 1 年目の教師+希望者とする。
- ・研究授業は授業者が担当している授業の中で研究の主旨にあう授業で実施する。

4. 研究の内容・経過 ～iPod 活用による学習活動の充実～

(1) 帰国した教員との交流

① ねらい

- ・帰国した教員との交流を通して、遠い日本に思いを寄せようとする。

- ・チリ(サンチャゴ)と日本の相違点に注目して、互いの良さを感じ取ろうとする。
- ・各学年、発達段階に応じて、その後の学習に生かしていく。

② 日時

水曜日の朝会(サンチャゴ時刻の8:15～8:25(日本時間との差は12時間))

③ 内容(平成26年度)

A 校長：日本の季節(チリと反対であること)、長野の自然(植物、動物、昆虫など)について。

B 教諭：日本の学校の様子について(例えば、給食。児童生徒数。)

C 教諭：丹波市の様子について(社会科の題材のひとつである丹波市についての学習時にC教諭を想起できるように)。

④ 交流の実際

ア B先生との交流

10月1日(水)8:15～

『B先生との交流会』の写真

<https://www.dropbox.com/sh/8s12dje34hsvst5/AAB6RPZ6TE146DRM6QYdZMola?dl=0>

B教諭から事前に送られてきた画像(スクリーン横のモニターに映し出す)

<https://www.dropbox.com/sh/3150b7wbft7qqm/AABiqUyR118kEAXBznkVQMoJa?dl=0>

イ C先生との交流

10月8日(水)8:15～

『C先生との交流会』の写真

https://www.dropbox.com/sh/qkge1jh0wihzool/AADk_BbKHx2M4hI_VoW7diq6a?dl=0

C教諭から事前に送られてきた画像(スクリーン横のモニターに映し出す)

<https://www.dropbox.com/sh/5k1xoy3foiwvdu0/AAABfQcgtNC6VK-uX5DbbN1ya?dl=0>

丹波立杭焼とぼたん鍋を紹介してもらった。4年生の社会科の学習の導入となった。

ウ A校長先生との交流

(3学期実施予定)

(2) 画像・映像検索

① グーグル画像検索による画像提示で、子どもの「？」に対応

- ・本年度検索した例を整理したもの

<https://www.dropbox.com/s/rixk3a4u9s23qsh/%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E5%A0%B1%E5%91%8A%E3%81%AA%E3%81%A9%E3%80%80%E8%93%84%E7%A9%8D%E5%A0%B4%E6%89%80.xlsx?dl=0>

② youtube や NHK for school による映像視聴で、子どもへの詳細な説明、学習のまとめに活用

ア Youtube

- ・組体操の模範演技を見せて、技の完成度を高めたり、安全指導を行ったりした。
- ・ハンドボール、アルティメットなど球技のルール指導や技術指導に活用した。

イ NHK for school

- ・低学年道徳「ざわざわ森のがんこちゃん」視聴
- ・高学年国語「おはなしのくにクラシック」視聴

- ・ 中学部国語「10min. ボックス 古文・漢文」視聴
 - ・ 中学部国語「10min. ボックス 現代文」視聴
- ウェブ・ページ内で番組を選択し、教材活用例を参考にしながら、授業を進めた。

(3) アプリケーションの活用

① カメラの活用

ア 実物投影

教師→子ども

- *教科書，教材を提示して，
 - ・視点を明らかにする。
 - ・細部を拡大して注目させる。
- *絵本，紙芝居の絵を提示して，
 - ・子どもに鮮明な画面を見せる。

子ども同士

- * ノートや新聞を提示して発表する。



学習のまとめとして作成したレポートをカメラで実物投影し、テレビモニターに映しながら、学級内で発表した。



学習のまとめとして作成した新聞を全校児童生徒に発表する。映したい場所を静止画で記録し、それをプロジェクターを使ってスクリーンに投影しながら発表した。

イ 静止画撮影→投影



走り高跳び

自分がまたぎ越すフォームを静止画で確認する。

ウ 動画撮影→投影



走り幅跳び

助走 → 踏みきり → 空中姿勢 → 着地
一連の流れを動画で撮り、自らの動きを振り返る。

② power point・keynote の活用



power point で作ったデータは keynote でよめるように変換、加工して活用した。また、pdf にして iBooks を使って映すこともした。その後、Microsoft から iPod や iPad に power point のアプリケーションを入れることができるようになり、便利になった。

活用例：*フラッシュカード *ピクチャーカード *歌詞カード
*教科書の文（顔を上げて声をそろえて読む練習をした。）

③ その他のアプリケーションの活用

ア Voice Memo

- ・国語の学習において、音読しているときの音声を録音し、振り返りとして聞き、改善点について考える活動に活用した。
- ・英語の学習において、自分の発音を自分で確かめるために活用した。
- ・音楽の学習において、合唱の各パートの旋律を事前に教師が録音し、練習に活用した。また、全校合唱のときに、別のパートを歌っている学年の歌声をステレオから流し、それに合わせて自分のパートを歌う練習をした。

イ Skype

- ・4年生社会科の警察についての学習において、警察官に直接インタビューした。
※日本との時差(12・13 時間差)を考慮すること、正式な依頼によるインタビューは勤務時間の関係で実施不可能であることなどから、個人的な知り合いや紹介でインタビューを受けてくれる人物を探し、交渉する必要があった。

ウ 各種アプリケーションの活用

- *漢字の筆順、部首、画数について学習できるアプリケーション
- *暗算の練習ができるようなアプリケーション

※iPod のアプリケーションは、使用者一人（個人）の記録を残し、その伸びを励みとする内容のアプリケーションが多く、授業で使用しにくいものが多い。

(4) 授業における実際

① 第4学年 社会

ア 単元名 わたしたちの県

イ 単元の目標

＜社会的事象への関心・意欲・態度＞ 県内のいろいろな地域の資料を集め、そこに暮らす人々の生活について進んで調べようとする。

＜社会的な思考・判断・表現＞ 県内の特色ある地域の様子と人々の生活を関連付けて県の特色を考えることができる。

＜観察・資料活用の技能＞ 様々な資料を活用して、地域と人々の生活の様子をとらえるとともに、県の特色を白地図等に表すことができる。

＜社会的事象についての知識・理解＞ 特色ある地域の様子や、そこに暮らす人々の生活の様子などから県の特色が分かる。

ウ 本時のねらい

- ・伝統産業である丹波立杭焼の特徴や歴史について理解することができる。
- ・教科書やインターネットを活用し、進んで学習することができる。

エ 本時の展開

学習活動	予想される児童の姿	学習活動の支援
1. 前時の学習を振り返り, 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県にはいろいろな産業があったよ。 ・篠山市には丹波立杭焼があったね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">丹波立杭焼についてしらべよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・C先生から送られた立杭焼の写真を見せることで、歴史・作り方など立杭焼について調べようとする意欲をもたせる。
2. 立杭焼について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・いつから作られるようになったのかな。 ・作り方について調べたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史、作り方などどのような観点で調べたらよいかを確認しておく。 ・一人1台ずつパソコンを準備し、インターネットを使って調べ学習ができるようにする。
3. 調べたことをまとめて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・登りがまをつかって焼いているんだね。 ・立杭焼のよさを知ってもらうためにいろいろな取り組みをしていることがわかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたものをテレビ画面に映し出すことで、説明しやすくする。
4. 学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと調べてみたいな。 ・自分たちの住んでいた地域にも伝統的な産業があるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりカードを書くことで自分の考えをまとめやすくする。 ・立杭焼を生かした取り組みや、地域の人々の思いにはどのようなものがあるのかを問いかけ次時につなげる。

② 第6学年 国語

ア 単元名 「やまなし」 〈資料〉イーハトーヴの夢

イ 単元の目標

場面についての描写や作品の中で使われている表現を味わい、複数の本や文章を読むことで作者の生き方や考え方をとらえることができる。

- ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知らうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・場面の様子をとらえ、優れた叙述に気付くことができる。
- ・複数の作品を読み、その特徴や作者の意図をとらえられる。(読む)
- ・物語の構成や比喩などの表現上の特色について理解することができる。(言語)

ウ 本時のねらい

十二月の場面を絵に表し、いつ、どこで、誰が、何をしたかを表す文や言葉を書き込む事を通じて、作品設定をとらえ、十二月の場面がどんな話かを話すことができる。

エ 本時の展開

過程	学習活動	○指導・支援 ※評価
つかむ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">十二月の場面はどんな話だろう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地上の十二月は、どんな季節かを話し合う。 児童「寒いです。」 児童「暗いです。」 児童「植物が枯れます。眠る動物もいます。」 児童「谷川の底は、月が明るくて水がきれいです。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○十二月の地上と谷川の底の様子の違いをとらえさせる。 ○できるだけ自由に発表させる。
考え・話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・十二月の場面を絵に表し、作品設定について話し合う。 「いつ・どこで・誰が・何をした」がわかるように絵で表す。 児童「ラムネのびんの月光がと書いてあるので夜です。」 児童「底の景色と書いているので、冷たい水底です。」 児童「かへの兄弟がだまってあわをはいて上の方を見ている。そして、あわくらべを始めました。」 児童「トブンとやまなしが落ちてきます。」 児童「お父さんが出てきて、やまなしだということを教えてくださいました。」 児童「かへの兄弟とお父さんがには、やまなしを追いかけて、自分のすに帰りました。」 ・十二月の場面を音読させる。(一文ずつで交代) 音読しながら、全体で情景を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○五月の場面と同じように作品設定を書き込み、五月の場面との違いに気付かせるようにする。 ※五月と比べながら、叙述から想像して十二月の情景を読み取っている。 ○何となくとかではなく、意見の根拠は明確にする。 ○声の大きさや速さ、間の取り方などに注意して読むように助言する。

深める	<ul style="list-style-type: none"> ・十二月はどんな話であるかを話す。 児童「やまなしが落ちてきて、かへの兄弟がうれしくなったり楽しくなったりする話です。」 児童「かへの兄弟が、やまなしが落ちてきてとても幸せな気持ちになる話です。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○「かへの兄弟が一話」という型で、自分のノートのまとめさせる。 ○ペアで話し合った後で、発表させる。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を振り返る。 	○振り返って感想や学びをまとめる。

5. 研究の成果

前項にあげた様々な取り組みを行ってきた。授業に携わる教員一人一人が iPod を持つことや各教室におけるインターネット環境を整えることで、子どもの興味を引き出したり、疑問を解決したり、学習の振り返りを行ったりすることができた。

6. 今後の課題・展望

今後さらに、今年度行った取り組みを続けてその有効性を確かめたり、より良い iPod の活用方法を開発したりしていきたい。具体的には、

- ・活用しやすいアプリを探し、その活用法を探る。
- ・教材としてのデジタルコンテンツを探し、その活用法を探る。
- ・帰国した教員とのかかわりの継続と、教員がかかわる子どもたちとの交流の機会をつくっていきたい。例えば、学校を紹介し合う、学習した内容の交流、児童生徒会との交流など。
- ・他の日本人学校の教員、子どもたちとの交流を模索する。まず、本校教員が同期派遣の教員などの知り合いを通じて、情報交換したり、訪問したりすることでつながりをつくっていく。
- ・クラウドの選びとその活用法を探る。便利で活用しやすいもの、使用容量が適当なもの、様々なクラウドの使い分けなどを考えていく。また、日本からの教材取り寄せにも有効に活用できるので、実際に使いながらそのより便利な活用法を探っていく。

以上のことについて、今年度の研究を生かしながら、次年度に取り組んでいきたい。そのためには、より安定したインターネット環境をつくっていくことができるように設備を整えていきたい。